

希望の子

小林市立南小学校 校長通信

令和3年10月8日 第19号 (文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3520 E-mail:1403eb@miyazaki-c.ed.jp

9月の運動会は、2学年ず

つの「分散型」としましたが、たくさんのご参観をいただき誠にありがとうございました。また、やむなく行いまいした参観者の制限に御協力いただいたことにも併せて感謝申し上げます。

後から伺った話ですが、フエンスの外からご覧になっていたおじいちゃんの間もあつたとか…。きっと「俺が遠慮する」と人数の制限を守っていただいたんですね。

その子には、おじいちゃんの間援の声は届かなかったかもしれないが、きっと「約束(きまり)を守る誠実さ」というすばらしい贈り物が心に届いたことでしょう。幸せなお孫さんだと思います。

コロナ禍の中、大きな混乱もなく、終業式を迎えました。一学期の本校の教育活動への御理解、御協力に深く感謝申し上げます。

できる子、苦手な子

朝の正門に、保護者の方の姿が見えました。PTA活動の一環としてあいさつ運動に来ていただいたようです。「各地の通学路で皆さんが活動していただいているのだな。」と改めてありがたく感じたところで、す。しかし、私としては、今ひとつ心もとなく思うところがあります。日頃の子どものための「あいさつ」です。

せっかく忙しい朝に立ってくださいっている保護者の方に気持ちのよいあいさつができているのか心配です。

その昔、この南小学校は、登校すると、校舎に向かって大きな声であいさつするのが習慣だったと記録に残っています。おそらく当時は多くの学校で同じようなことが行われていたでしょうが、わざわざ記録に残っていると言うことは、徹底された南小学校の伝統だったのでしょうか。

さて、今は集団登校。通りで元気な声であいさつしてくれると安心しますね。でも、中にはなかなか声の出ない子もいます。人とすれ違うと、反対にうつむき加減になる子もいます。その子は決してだらしがないとか、決まりを守らないとか、いい加減な子でもありません。学校では仕事もしっかりするし、友だちとも笑顔で過ごしている子なのです。こんな子に、どう背中を押してあげたらいいのか…実は、私も答えを持ち合わせていません。

今までの教え子にも、こんな子はたくさんいました。大人になっての再会に、はにかんであいさつしないかと思えば、肩を叩いて大きな声で語りかけてくるほど厚かましくなっている子(大人)もいます。いったいこの子に何があつたのでしょうか。

ある業界日本一の企業の人材担当者に、どんな人材を求めているか聞きました。即答「あいさつができて元気、それに素直さがあれば、あとは会社が育てます。」ときっぱり。専門的な技術や知識よりも大切にしているそうです。「学校でもっと厳しく指導」という御意見もごもっともです。伝統を取り戻すためには必要なのかもしれません。しかし、学校の外でもしっかりとできるレベルは至難の業です。やはり心の成長が必要なのではないか。強い部活の高校生が街の人にも立派にあいさつできるのは、生活から鍛えられているからでしょう。

ある業界日本一の企業の人材担当者に、どんな人材を求めているか聞きました。即答「あいさつができて元気、それに素直さがあれば、あとは会社が育てます。」ときっぱり。専門的な技術や知識よりも大切にしているそうです。「学校でもっと厳しく指導」という御意見もごもっともです。伝統を取り戻すためには必要なのかもしれません。しかし、学校の外でもしっかりとできるレベルは至難の業です。やはり心の成長が必要なのではないか。強い部活の高校生が街の人にも立派にあいさつできるのは、生活から鍛えられているからでしょう。

秋の行事

今年は学校だけの活動ですが「南小まつり」を実施することに致しました。御協力いただきます地域の皆様にもお礼を申し上げます。5・6年生は、これまでにない活動も計画中ですのでお楽しみに。10月24日(日)

道徳の授業の感想

新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を防ぐために、小林市教育委員会が資料を作成し、小林市全校で道徳の授業が行われました。保護者の皆様にも感想をお願いしたところですが、お忙しい中、たくさんのお返事が届いたことに驚きました。日頃から、子どもの人権を守るために真剣に考えてくださっていることがよく分かりました。勝手に申し訳ありませんが、ご意見の一部を紹介させていただき、思いを共有したいと思います。

御協力ありがとうございました。

- 家庭でもコロナに限らず差別、偏見はよくないことと話をしています。ワクチンを打っていても感染はする、自分がウイルスを運んでしまうかもという認識を持てば、差別、偏見は減ると思います。
- 今もなくなるしない差別や偏見。親が話す内容などが子どもに影響する可能性があるの
で気を付けていきたいです。
- みんながつらいときほど励ますことができる強い人間でありたいと思いました。
- コロナ感染。自分にも起こると思っていても感染者が出たと聞くと不安になります。でも落ち着いて、感染予防と人への思いやりを忘れずに、日々生活していきたいと思います。
- 大人が発する言葉や反応に子どもは影響を受けと思うので、普段からの言葉遣いや反応に気を付けたいです。コロナのことに限らず、相手の立場に立って物事が考えられよう機会あるごとに親子で話していきたいです。
- コロナ差別だけでなく、人を外見や境遇、他の人からの話(うわさ)で差別、偏見をすることは絶対に許せないことです。このコロナ禍で子どもたちは身をもって差別、偏見を学習できていると思います。

みんな大切なことは分かっているし、知っている。

しかし、事が自分の身に降りかかったときに、簡単に崩れてしまうことがあります。

批判が外に向いて不安や怒りが湧いてくると

分かっていたはずの自分の心さえ見失うことがあります。

人の心は年齢に関係なく、いつまでも成長期です。

大人も子どもも いつも語り合って心を鍛えましょう。